

# 持続可能な社会の在り方を考える子どもが育つ社会科学習

名古屋市立笠東小学校教諭 田 中 隆 晃

## I 研究のねらい

現代社会では、環境破壊、気候変動、食料やエネルギー資源の確保、紛争問題などの課題に対して、地球規模での対応が求められている。このような社会を取り巻く諸課題を解決し、将来にわたって安心して暮らすことのできる社会を形成するために、「持続可能な開発のための教育（以下：ESD）」が推奨されている。また、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標（以下：SDGs）」は、持続可能な社会を目指すために、新しいアプローチが必要だと世界に訴え掛けている。これらを踏まえ、学習指導要領の前文においても、「持続可能な社会の創り手」を育成するよう明記されており、教育を通して持続可能な社会を形成する重要性が強調されている。

私が考える「持続可能な社会の在り方を考える」とは、SDGsで示されているような地球規模の諸課題について、ただ理解するだけでなく、社会科学習を通して、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連などから、社会の中で生かすことのできる知識を獲得し、持続可能な社会をつくるためには「どのようなことが大切か」を考えることである。これは、国立教育政策研究所が刊行した「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究[最終報告書]」においても、各教科の授業の中で、「持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付けること」が重要であると示され、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養うことに資すると考える。

また、2023年3月の中央教育審議会の答申にも、「予測できない未来に向けて自らが社会を創り出していくという視点からは、『持続可能な社会の創り手』という学習指導要領前文に定められた目指すべき姿を実現することが求められる」と示されている。本研究で目指す「持続可能な社会の在り方を考える」は、この学習指導要領で目指す理念と方向性が一致しており、今日的課題に迫るという点で意義がある。

## II 研究の方法

1 研究の対象 名古屋市立笠東小学校 第5学年 28人

### 2 基本的な考え

「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究[最終報告書]」には、持続可能な社会をつくる構成概念（以下：構成概念）として、「多様性（いろいろある）」「相互性（関わりあっている）」「有限性（かぎりがある）」「公平性（一人一人を大切に）」「連携性（力を合わせて）」「責任性（責任をもって）」の六つが示されている。これらは、国立教育政策研究所が、「持続可能な社会づくりに関わる課題」を見いだすために、「持続可能な社会づくり」を捉える視点として明確にしたものである

上位概念	視点	① 多種多様な要素からなる視点	② 互いに作用し合う視点	③ ある方向へ変化している視点
【1】 人を取り巻く環境（自然・文化・社会・経済など）に関する概念		「多様性」 【いろいろある】	「相互性」 【関わりあっている】	「有限性」 【かぎりがある】
【2】 人（集団・地域・社会・国など）の意思や行動に関する概念		「公平性」 【一人一人を大切に】	「連携性」 【力を合わせて】	「責任性」 【責任をもって】

【資料1】。

【資料1 持続可能な社会をつくる構成概念】

これらの構成概念を社会科の学習に取り入れることにより、持続可能な社会をつくるためには「どのようなことが大切か」という理解が深まると考える。

そこで、この六つの構成概念の中から、人を取り巻く環境（自然・文化・社会・経済など）に関する概念である「多様性」「相互性」「有限性」の三つの構成概念を取り入れることにした。

そして、本研究の主題である「持続可能な社会の在り方を考える子ども」に迫るために、基本的な学習過程「つかむ」「しらべる」「まとめる」という三つの段階を設け、それぞれの段階の学習を右のように進めることにした【資料2】。

段階	主な学習活動
つかむ	○ 資料を基に、疑問を発表し合い、学習問題をつくる。
しらべる	○ 様々な取組について調べる。また、調べて分かったことと持続可能な社会をつくる三つの構成概念を関連付ける。
まとめる	○ 構成概念を基に、考えを交流して、まとめる。 ○ 持続可能な社会のために、生かすことができることを考え、話し合う。

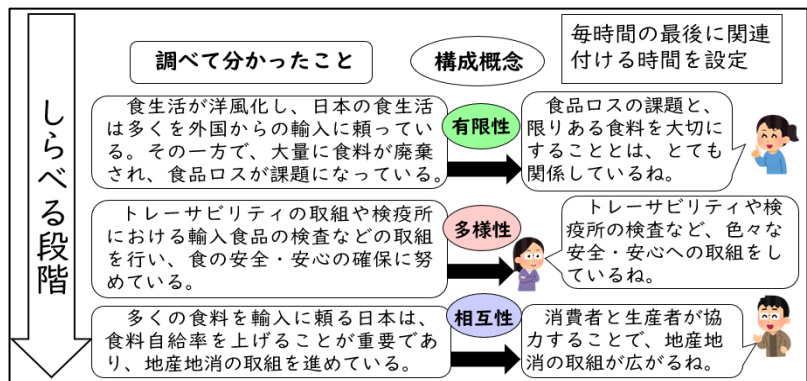
【資料2 基本的な学習過程】

### 3 持続可能な社会の在り方を考える子どもを育てるために

本研究の主題に迫るために、「しらべる」段階と「まとめる」段階を、次のように工夫することにした。

#### (1) 「しらべる」段階について

「しらべる」段階において、授業の最後に、調べて分かったことと持続可能な社会をつくる三つの構成概念（「多様性（いろいろある）」「相互性（関わりあっている）」「有限性（かぎりがある）」を照らし合わせ、どの構成概念と関連付いているかを話し合う時間を設定する【資料3】。

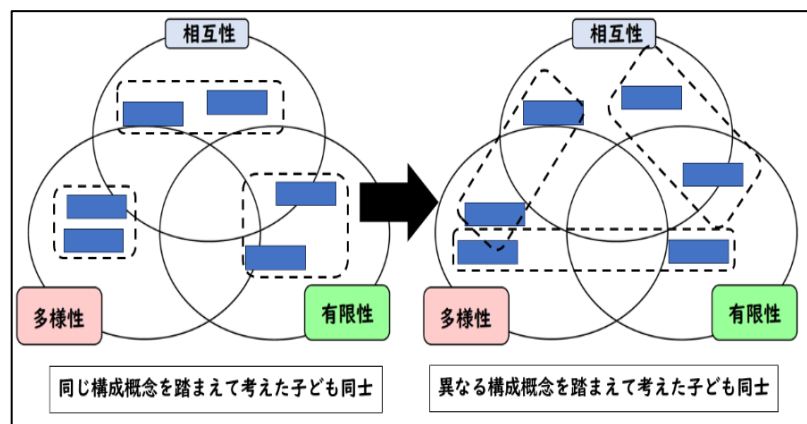


【資料3 「しらべる」段階】

#### (2) 「まとめる」段階について

「まとめる」段階において、「サステナブル・タイム」を設定し、ベン図を基に、考えを伝え合う。

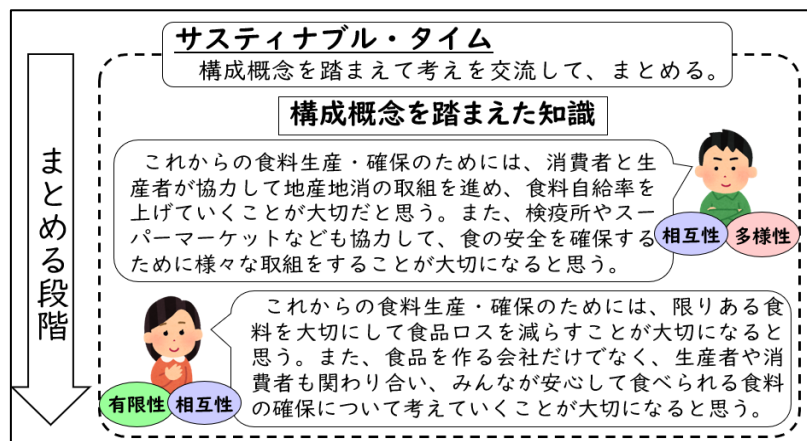
この「サステナブル・タイム」では、はじめに、どの構成概念を踏まえて考えたのか可視化するために、ネームプレートをベン図に貼る。次に、ネームプレートの貼られた場所を基に、同じ構成概念を基に考えた子ども同士で考えを伝え合う。その後、異なる構成概念を基に考えた子ども同士で考えを伝え合う【資料4】。



【資料4 「サステナブル・タイム」における考えを伝え合い】

この「サステナブル・タイム」における考えを伝え合うことにより、構成概念を踏まえた知識を獲得できるようにする【資料5】。

最後に、獲得した構成概念を踏まえた知識を基に、「持続可能な社会の在り方」について考えをまとめる。



【資料5 「まとめる」段階】

### Ⅲ 子どもの実態

- 1 調査日 5月18日～5月31日
- 2 調査方法 質問紙法・授業の記述分析
- 3 調査対象 名古屋市笠東小学校 第5学年 28人
- 4 調査の結果と考察【持続可能な社会に向けて大切だと思うことに対する子どもの認識】

子どもに、「①持続可能な社会をつくるためには、どのようなことが大切だと思いますか」「②また、どうして大切だと思いますか」と問い、質問紙に記述させたところ、右のようになった【資料6】。

		①持続可能な社会をつくるためには、どのようなことが大切だと思うか。 (複数回答)							
②大切だと思う理由の具体的な記述		助け合い	協力	思いやり	絆	資源をとりすぎない	環境を守る	その他	分からない
	記述できる	3人	3人	1人		2人 (A児)	2人	2人	7人
	記述できない	10人 (A児)	7人 (B児)	6人	6人			8人	7人 (C児)

【資料6 持続可能な社会に対する理解】

この結果から、「助け合い」「協力」「思いやり」など、構成概念に類似する抽象的な理解

をしている子どもの多くは、大切だと思う理由を具体的に記述することができないことが分かった。

そのため、調べて分かったことと構成概念を関連付けるための工夫が必要だと考えた。

また、単元「米づくりのさかんな地域」の学習で、三つの構成概念を示し、調べて分かったことと構成概念を関連付けながら学習を行った。その後、「まとめる」段階で、学習問題に対するまとめを行った結果、28人中17人の子どもは、構成概念を踏まえた学習のまとめを行うことができなかった【資料7】。

三つの構成概念を踏まえて学習のまとめを行うことができたか。 n=28	
できた	できなかった
11人 (A児)	17人 (B・C児)

そのため、構成概念を踏まえた知識を獲得させるためにも、子ども同士で構成概念を踏まえた考えを伝え合い、まとめるための工夫が必要だと考えた。

【資料7 構成概念を踏まえた知識の獲得調査】

### Ⅳ 第1次授業研究（6月）

- 1 単元 これからの食料生産とわたしたち
- 2 目標

我が国の食料生産・確保の現状を取り上げ、食の安心・安全の確保や持続可能な食料生産・確保が重要な課題であることを捉え、食料生産・確保の持続可能な発展を考えようすることができるようにする。また、我が国の食料自給率や外国との関わり、食の安全・安心への取組などに着目して調べ、消費者や生産者の立場から、これからの食料生産・確保のよりよい在り方について考え、適切に表現することができるようにする。

#### 3 検証項目

「まとめる」段階において、「サステイナブル・タイム」を設定し、三つの構成概念を基に、考えたことを伝え合ってまとめることは、構成概念を踏まえた知識を獲得する上で有効か、記述内容からつかむ。

#### 4 実践の概要

##### (1) 実践単元

段階	主な学習活動
つかむ	① 日本と主な国の食料自給率の資料を基に、学習問題を設定する。 【学習問題】 これからの食料生産をどのように進めたらよいのだろう。
しらべる	② 食品ロスを少なくしようとする企業の取組を調べ、限りある食料を大切に取る取組は、どの構成概念と関連しているか話し合う。 ③ トレーサビリティや検疫所などの取組を調べ、食の安全・安心を確保するために行う様々な取組は、どの構成概念と関連しているか話し合う。 ④ 地産地消の取組を調べ、食料を安定的に確保するため、消費者と生産者が協力して行っている取組は、どの構成概念と関連しているか話し合う。
まとめる	⑤ 「サステイナブル・タイム」を設定し、三つの構成概念を基に、考えを伝え合ってまとめる。 ⑥ 学習したことを基に、持続可能な社会の在り方について考えをまとめる。 【検証場面】

## (2) 検証場面までの流れ

第1時では、日本と主な世界の国の食料自給率の資料を基に、日本の食料自給率の低さを捉えた。その後、食料生産・確保で心配されることや疑問に思ったことを発表し合い、学習問題を設定した。

第2時では、和洋食の写真の比較をして、食生活が変化してきたことを捉えた。次に、主な食料品別の輸入量のグラフの推移を基にして、多くの食料を外国からの輸入に頼っている現状を捉えた。そして、廃棄する食品を再利用する取組や消費者に対して「手前どり」を推奨する取組など、食品ロスを少なくしようとする企業の取組を調べた。授業の最後に、調べて分かったことと三つの構成概念を照らし合わせた子どもたちは、「食べられる食品を捨てているなんて、資源が無駄になっている」「消費者もすぐに使うか、すぐ使わないかを考えてから買うことが必要だ」と話し合い、限りある食料を大切にしている取組は、有限性に当たると関連付けることができた。また、「食品ロスの問題は、食料という資源を無駄にしないようにするためにも、生産者も消費者も互いに協力して考えなくてはいけないと思う」と話し合い、消費者と生産者が協力することは、相互性に当たると関連付けることができた。

第3時では、トレーサビリティや国の検疫所が行う検査など、食の安心・安全を確保するための取組を調べた。授業の最後に、調べて分かったことと三つの構成概念を照らし合わせた子どもたちは、「様々な検査をしてくれているおかげで、安心して食べられる食品が届いている」「今後も、安全な食品を食べるために、多くの検査をしていくのかもしれないよね」と話し合い、安心・安全な食料を確保するための様々な取組は、多様性に当たると関連付けることができた。

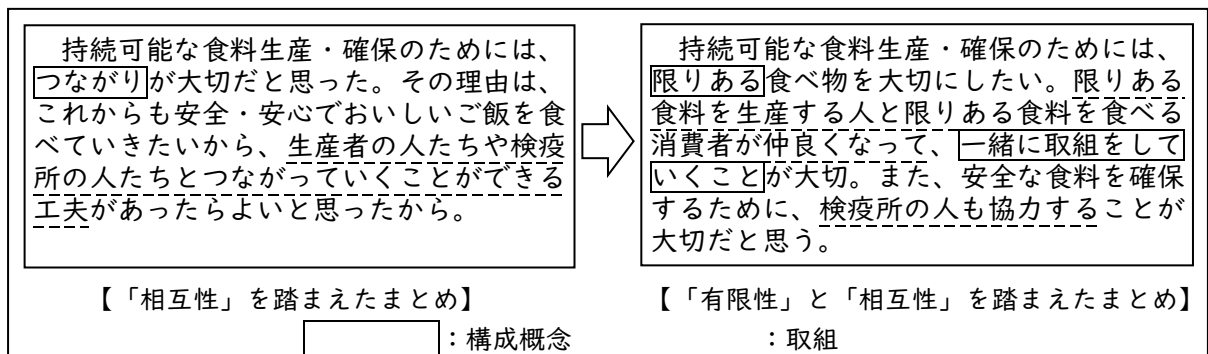
第4時では、産業別の人口の割合の変化と土地利用の変化を調べ、日本の抱える食料生産・確保の課題を捉えた。また、JAで働く野菜の生産者の話から、地産地消の取組を調べた。授業の最後に、調べて分かったことと三つの構成概念を照らし合わせた子どもたちは、「地域で採れた野菜を、地域で消費すると環境にもよいし、安心して食べられる」「消費者は地域の生産者を応援することで、食料自給率が高まるかもしれない」と話し合い、生産者と消費者の関わりを大切にしている取組は、相互性に当たると関連付けることができた。

## (3) 検証場面 【第5時】

第5時では、「サステイナブル・タイム」を行った。まず、三つの構成概念を基に、持続可能な食料生産・確保のために大切なことを一人で考え、まとめた。次に、どの構成概念を踏まえて考えたのかを可視化させるために、三つの構成概念を示したベン図にネームプレートを貼った。

その後、同じ構成概念を踏まえた考えをもった子ども同士で考えを伝え合った。最後に、他の構成概念を踏まえた考えをもった子ども同士で考えを伝え合い、まとめた。

A児は、一人で考えた際は、「相互性」を基に、生産者と検疫所の人がつながることができるような工夫を行うことが大切だと考えた。次に、同じ構成概念である「相互性」を踏まえた考えをもった子どもと伝え合ったことで、「相互性」を踏まえた他者の考えを知り、生産者と検疫所の人だけではなく、消費者もつながることが大切だと関連付けて考えた。最後に、他の構成概念である「有限性」を踏まえた考えをもった子どもと伝え合ったことで、「有限性」を関連付けてまとめた【資料8】。



【資料8】 「サステイナブル・タイム」前後のA児の記述



## V 長期研修で学んだこと

### 1 東京都市大学教授 佐藤 真久 氏

佐藤真久氏からは、「持続可能な社会」を目指すためにも、ESDを中心に据えた学習展開が強く求められている現状について教えていただいた。また、社会科の学習をESDで捉え直し、持続可能な社会をつくる構成概念を意識した学習へと変化させる必要性について御助言をいただいた。

本実践については、社会科の学習を通して、子どもがどう変容していったのかを見取っていくためにも、授業研究する単元を中心に実践するだけではなく、年間を通して全ての単元で構成概念と関連付けてまとめるようにすることが大切であると御指導いただいた。また、単元と関連性の高い構成概念を、具体的な言葉（キーワード）に直した上で、学習に取り入れるとより効果的であると教えていただいた。

### 2 広島修道大学教授 永田 成文 氏

永田成文氏からは、構成概念を踏まえた知識をどのように評価してくとよいか御助言をいただいた。

本実践については、「まとめる」段階に行う「サステイナブル・タイム」の子どもの記述を検証する前に、教師側がより具体的な評価基準を設けておくことが重要になると教えていただいた。そのためにも、子どもがどのような文章を記述することができたら、構成概念を踏まえた知識を獲得しているのかを具体的記述として示すことが必要になると教えていただいた。

### 3 奈良教育大学准教授 及川 幸彦 氏

及川幸彦氏からは、持続可能な社会をつくる構成概念を子どもに提示する際の留意点や方法について教えていただいた。

本実践では、構成概念を表す言葉【「相互性(つながっている)」「多様性(いろいろある)」「有限性(かぎりがある)】が抽象的であり、子どもが捉えにくくなっていることを御指摘いただいた。そのため、学習する単元に合わせて、子どもが捉えやすい平易なキーワードに直してから、学習のまとめをするとよいと教えていただいた。

## VI 第2次授業研究に向けての改善点

「しらべる」段階において、調べて分かったことを三つの構成概念を基に作ったベン図に分類して学習内容を整理する。そして、分類した取組の共通点について話し合い、構成概念をキーワード化することで、子どもにとって捉えやすい構成概念に直す。

「まとめる」段階において、分類した取組の共通点からキーワード化させた三つの構成概念を基にまとめることで、構成概念を踏まえた知識を獲得することができるようにする。

## VII 第2次授業研究（9月・10月）

### 1 単元 環境を守るわたしたち

### 2 目標

関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことや、公害から環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解し、持続可能な環境の保全について考えることができるようにする。また、地球規模で起こる環境問題に対して、責任をもって継続的に取り組もうと人々が協力や努力する活動に着目して調べ、持続可能な社会の達成に向けて考え、適切に表現できるようにする。

### 3 検証項目

「まとめる」段階において、「サステイナブル・タイム」を設定し、分類した取組の共通点からキーワード化させた三つの構成概念を基にまとめることは、構成概念を踏まえた知識を獲得する上で有効か、記述内容からつかむ。

## 4 実践の概要

### (1) 実践単元

段階	主な学習活動
つかむ	① 学区の天白川や京都の鴨川の昔と今の川の様子を比較して、環境問題で心配されることや疑問に思ったことを発表し合い、学習問題を設定する。 【学習問題】 これからの環境保全をどのように進めたらよいのだろうか。
しらべる	② 天白川の堤防沿いや京都市に住む方の話を基に、川の汚染の原因を調べる。 ③ 公的機関が行う川の整備や管理などの取組や、環境保全条例や環境保全のための法律を作る取組は、どの構成概念と関連付いているか話し合う。 授業の最後に、調べて分かったことをベン図に分類し、学習内容を整理する。分類した取組の共通点について話し合い、構成概念をキーワード化する。 ④ 限りある海の生き物を守ろうとする企業の取組や、堤防のごみ拾いの活動などの地域の人々が環境と関わっていく取組は、どの構成概念と関連付いているか話し合う。 授業の最後に、調べて分かったことをベン図に分類し、学習内容を整理する。分類した取組の共通点について話し合い、構成概念をキーワード化する。
まとめる	⑤ 「サステイナブル・タイム」を設定し、分類した取組の共通点からキーワード化させた三つの構成概念を基に、環境保全に向けて大切なことをまとめる。【検証場面】 ⑥ 学習したことを基に、持続可能な社会の在り方について考えをまとめる。

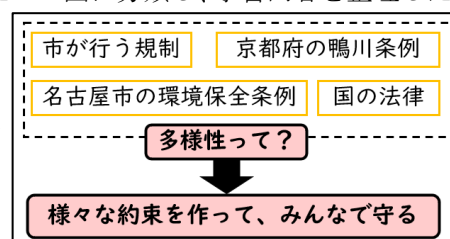
### (2) 検証場面までの流れ

第1時では、学区を流れる天白川や京都を流れる鴨川の昔と今の様子を比較して、川の汚染問題があったことを捉えた。その後、川の汚染が徐々に改善されていったことに着目させながら、環境問題で心配されることや疑問に思ったことを発表し合って、学習問題を設定した。

第2時では、天白川の堤防沿いや京都市に住む方の話を基に、川が汚染されていった原因を捉えた。

第3時では、名古屋市緑政土木局や京都市役所の方の話から、川の整備や維持管理などを公的機関が行っていることを調べた。調べて分かったことと三つの構成概念を照らし合わせた子どもたちは、「市役所や公的な機関で働く人々が関わり合って、川の環境を保全しているんだね」などと話し合い、環境保全に関係する公的機関の取組は、相互性に当たると関連付けることができた。また、名古屋市が定めた環境保全条例や京都府が定めた鴨川条例、国が作った環境保全に関する様々な法律などを調べた。調べて分かったことと三つの構成概念を照らし合わせた子どもたちは、「多くの地域で、その地域に合わせた条例が作られているね」「国は様々な法律を作って、環境を守ろうとしている」などと話し合い、様々な条例や法律が作られた取組は、相互性に当たると関連付けることができた。

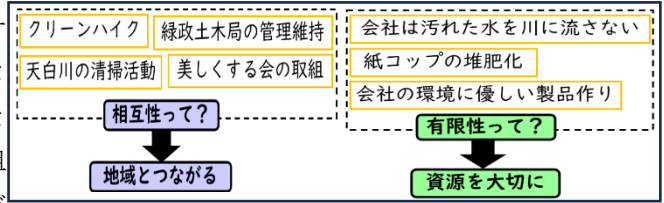
これらの調べて分かったことを三つの構成概念を基に作ったベン図に分類し、学習内容を整理した。そして、分類した取組の共通点について話し合い、構成概念をキーワード化した。その際、「条例や法律は、様々なものがあるから多様なかな」「どれも約束を作って、みんなで守っていくことが大切ってことだと思う」などと話し合い、「多様性」を「様々な約束を作って、みんなで守る」というキーワードに直した【資料11】。



【資料11 キーワード化】

第4時では、分解されるプラスチック製品を作る企業や、紙コップを堆肥化できるように開発を行う企業の取組を調べた。調べて分かったことと三つの構成概念を照らし合わせた子どもたちは、「企業の人には、お金をもうけるだけではなくて、環境のことを考えて仕事をしている」「石油には限りがあることは知っていたけれど、海や海の生き物も限りある資源ということが分かった」などと話し合い、限りある資源を大切に取る取組は、相互性に当たると関連付けることができた。また、天白川や鴨川周辺のごみ拾いの活動から、地域に住む人々も清掃活動に参加しようとする理由を調べた。調べて分かったことと三つの構成概念を照らし合わせた子どもたちは、「住みやすい環境にするため、地域に住む人々が地域の環境を守るべきであると考えている」と話し合い、地域に住む人々が環境に関わっていく取組は、相互性に当たると関連付けることができた。

これらの調べて分かったことを三つの構成概念を基に作ったベン図に分類し、学習内容を整理した。そして、第3時と同じように構成概念をキーワード化した。その際、「清掃活動は、地域と関わっていくことが大切だから、相互性だと思う」「プラスチック製品を作る企業の取組は、限りある資源を大切にしているよね」などと話し合い、「相互性」を「地域と関わり合う」というキーワードに直した。また、「有限性」を「資源を大切に」というキーワードに直した【資料12】。



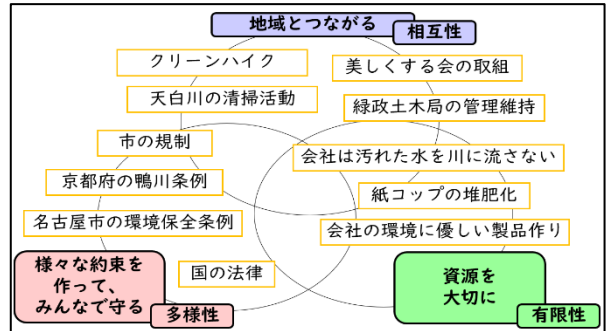
【資料12 キーワード化】

(3) 検証場面 【第5時】

第5時では、「サステイナブル・タイム」を行った。まず、「しらべる」段階で作成したキーワード化したベン図【資料13】を基に、これからの環境保全のために大切なことを一人で考え、まとめた。

次に、どの構成概念を踏まえて考えたのかを可視化するために、三つの構成概念を示したベン図にネームプレートを貼った。その後、同じ構成概念や、他の構成概念を踏まえた考えをもった子どもと考えを伝え合い、これからの環境保全のために大切なことをまとめた。

第1次授業研究では、構成概念を踏まえた考えをもつことができなかったC児であったが、一人で考えた際は、「相互性」を踏まえて、「地域の人々と堤防の清掃活動などに参加することが大切だ。そうすることで地域の環境が守られる」と考えた。次に、同じ構成概念や他の構成概念を踏まえた考えをもった子どもと考えを伝え合ったことで、「国が法律を作ることが大切。そうすることで地域の人だけではなく、国民全員が環境を守るために取り組むことができる」と「有限性」の構成概念と関連付けて考えることができた【資料14】。



【資料13 構成概念をキーワード化したベン図】

C児： 環境保全に向けて、地域の人と関わり合うことが大切だと思う。一緒に川の堤防の掃除をしたり、みんなでごみを捨てないように呼び掛けたりすることが、これからは大切だと思う。  
 児童： 地域の人々とつながることで、地域に流れる川の環境は守られるものね。  
 C児： どんなこと考えたの？  
 児童： 私は、様々な約束を作って、みんなで守ることが大切だと思った。市が様々な条例を作ったり、国が環境を守るための様々な法律を作ったりしていたから、環境を守るためには約束を作って、みんなで守っていくことが大切だと思った。  
 C児： なるほどね。国が法律を作ること、天白川や鴨川だけじゃなくて、他の地域の川の環境も守れるもんね。

【資料14 考えを伝え合うC児の様子】

最後に、一人で考えをまとめた際には、構成概念の「相互性」と「有限性」を踏まえてまとめることができた【資料15】。

これからの環境保全に向けて、「**地域の人とつながる**」ことが大切だと思った。地域の人と一緒に川を掃除したり、ごみを捨てないように呼び掛けたりすることで、これからも地域の環境が守られると思った。

【「相互性」を踏まえたまとめ】

□ : 構成概念

➡

これからの環境保全に向けて、「**地域の人とつながる**」ことや「**様々な約束を作って守る**」ことが大切だと思った。国が環境を守るための様々な法律を作って、みんなで守っていくことで、多くの人々が環境保全のために取り組むと思った。また、地域に住む人だけが掃除するのではなくて、日本人全員で環境を守るために取り組むことが大切になるのではないかなど思った。

【「相互性」と「多様性」を踏まえたまとめ】

□ : 取組

【資料15 「サステイナブル・タイム」前後のC児の記述】



(4) 検証場面の結果と考察

児童数 27 人（転出 1 人）

A（十分満足できる）	B（おおむね満足できる）	C（努力を要する）
これからの環境保全に向けて大切なことを、複数の構成概念を基に、まとめることができている。	これからの環境保全に向けて大切なことを、一つの構成概念を基に、まとめることができている。	これからの環境保全に向けて大切なことを、構成概念を基に、まとめることができていない。
21 人（A児・C児）	5 人（B児）	1 人
26 人		

C児のように、これからの環境保全に向けて大切なことを、構成概念を基に、まとめることができた子どもが 27 人中 26 人いた。これは、「まとめる」段階において、「サステナブル・タイム」を設定し、分類した取組の共通点からキーワード化させた三つの構成概念を基に、まとめたからだと考える。また、第 1 次授業研究の C児のように、調べて分かったことと構成概念を関連付けることができなかつた子どもも、「しらべる」段階で、調べて分かったことを三つの構成概念を基にしたベン図に分類して学習内容を整理し、分類した取組の共通点について話し合っただけで構成概念をキーワード化したことにより、考えをまとめることができるようになったと考える。

## VIII 研究のまとめ

### 1 検証場面後の子どもの様子

第 6 時では、これまで学習してきたことを基に、学習問題「これからの環境保全をどのように進めたらよいのだろう」を考え、話し合った。

話し合いでは、地域の事例を基に、地球規模で起こる海洋汚染の問題を取り上げて考えさせた。レジ袋やストローなどのプラスチック製品が、川から海に流れ着いて海洋汚染を引き起こし、野生動物に被害を与えている資料を提示して、話し合わせた。

話し合いの様子を観察すると、構成概念を踏まえた知識を活用しながら、持続可能な社会に向けて話し合う子どもの姿が多く見られた【資料 16】。

最後に、これまでの学習を振り返ると、以下のように記述した【資料 17】。

C児： 「地域の人とつながる」ことが大切だと思ったから、鴨川や天白川で学んだように、地域の人々が清掃活動に協力するようになれば、川の汚染が減っていくかもしれないよね。

児童： 地域の人々の協力も大切だけど、企業に協力してもらうのは、どう？写真を見るとプラスチック製品が捨てられているのが分かるよね。だから、環境に優しい製品を作るようなたくさんの会社に協力してもらおうのは、どうだろう。

A児： 賛成！他にも、「約束を作って守る」ことが大切だと思う。名古屋市や京都府が条例を作って知らせたように、地域のことを守っていかうとする気持ちを約束にしていたよね。

B児： あと、名古屋市や京都府だけでなく、国が環境を守っていくための様々な法律を作っていたから、環境を守るためには、みんなで環境を守るための思いを強くもって、みんなで約束を作ることが大切だと思う。

C児： みんなで考えたことを基に国が法律を作ると、他の地域の川も守ることができるようになるかもしれないね。

A児・B児・児童： 確かに！！

【資料 16 考えを伝え合う子どもの様子】

少し前の日本でも、ごみを川に捨てていたようなことが、他の国々でも行われていることを知り、環境に対する思いが変わっていくような取組があると思いました。

様々な約束を作って環境を守ろうとした日本のように、世界でも様々な約束を作って、みんなで環境を大切にしようという思いを高めることが持続可能な社会をつくるためには大切になると思いました。

【B児の記述】

地域の人々が協力して清掃活動をしたり、様々な条例を作ったりして、環境を守ろうと努力したように、みんなで環境について考え続けることが大切だと思いました。

プラスチックごみの問題以外にも、地球上には様々な環境問題があるので、日本だけではなく世界中の人々がつながり合っただけでなく、環境を守るために知恵を出し合うことが、持続可能な社会につながると思いました。

【C児の記述】

【資料 17 学習後の子どもの記述】

B児やC児の記述のように、学習を通して獲得した構成概念を踏まえた知識を生かして、持続可能な社会の在り方を考える子どもの記述が多く見られた。

## 2 授業実践後の調査の結果と考察【持続可能な社会に向けて大切だと思うことに対する子どもの認識】

実践後の子どもに「①持続可能な社会をつくるためには、どのようなことが大切だと思いますか」「②また、どうして大切だと思いませんか」と問い、質問紙に記述させたところ、右のようになった【資料18】。

この結果から、多くの子どもが、「関わり合う」「資源を大切に使う」「互いを認め合う」などの、持続可能な社会をつくるための構成概念と関連付け、大切だと思った理由を具体的に記述することができたことが分かった。

これは、「しらべる」段階で、調べて分かったことと構成概念を照らし合わせ、どの構成概念と関連付けているかを話し合う時間を設定したことで、社会的事実と構成概念と関連付けながら考えようとすることができるようになったからであると考えられる。

また、単元「これからの工業生産とわたしたち」の学習で、三つの構成概念を示し、調べて分かったことと構成概念を関連付けながら学習を行った。その後、「まとめる」段階で、「サステナブル・タイム」を設定し、ベン図を基に考えを伝え合って、まとめた結果、27人中23人の子どもが、構成概念を踏まえた学習のまとめを行うことができた【資料19】。

これは、調べて分かったことを三つの構成概念に分類して学習内容を整理し、分類した取組の共通点について話し合い、構成概念をキーワード化したことで、子どもにとって曖昧であった構成概念を捉えやすくすることができたからだと考える。

## 3 今後の研究に向けて

単元「これからの工業生産とわたしたち」の学習後の振り返りで右のような記述が見られた【資料20】。構成概念を社会科の学習に取り入れたことで、この子どものように、構成概念を踏まえた知識を獲得し、持続可能な社会をつくるためには「どのようなことが大切か」という理解が深まったと考える。

一方、構成概念を踏まえた知識を獲得したものの、その後の学習において、獲得した知識を十分に活用することができない子どもの姿も見られた。そこで、「まとめる」段階において、持続可能な社会のためにどのようなことができるのか考えるための更なる工夫が必要になると考える。

今後も、構成概念を踏まえた知識の獲得に向けた研究実践を積み重ね、持続可能な社会の在り方を考える子どもが育つように、研究を進めていきたい。

		①持続可能な社会をつくるためには、どのようなことが大切だと思うか。 (複数回答)				
②大切だと思った理由 の具体的な記述		関わり合う 【相互性】	資源を 大切に使う 【有限性】	互いを 認め合う 【多様性】	その他	分からない
	記述 できる	25人 (B児)	22人 (A・B児)	19人 (C児)	8人	1人
	記述 できない	2人	2人	3人	3人	1人

【資料18 実践後の持続可能な社会に対する理解】

三つの構成概念を踏まえて学習のまとめを行うことができた。 n=27 (転出1人)	
できた	できなかった
23人 (A・B・C児)	4人

【資料19 構成概念を踏まえた知識の獲得調査】

これからの工業生産のためには、「限りある資源を大切に使う」ことや「様々な技術を使う」ことが大切だと思った。水や食料などと同様に、石油や鉄などの資源を大切に使う、品物を作っていないかと思わない。また、持続可能な社会にするためにも、環境に優しい製品なのか調べたり、人々が安心して使うことができるような品物か判断したりするなど、私たちが考え続けることが大事だと思う。

【資料20 学習後の振り返り】

参考・引用文献 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)』(2017)

国立教育政策研究所 教育課程研究センター

『学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究[最終報告書]』(2012)

文部科学省『次期教育振興基本計画について(答申)(中教審第241号)』(2023)